

はじめに

古代国家が手工業生産をどのように掌握しようとしたのか。瓦を題材。

社会経済史研究……生産、流通、消費の問題

七世紀終わり～八世紀の日本 律令制の下で都城造営。巨大な消費をいかに満たすか？

藤原京、平城京などの都城……経済的中心地でなく政治都市。流通は国家的政策に依存。

都城における流通の問題……租税制度、貨幣政策などの面を中心に検討。

食糧品……貢進物付札：租税制度の面と現実に存在したモノとをつなぐ文字資料

手工業製品中、繊維製品……墨書銘を持つ調・庸・交易布が遺存（正倉院）。

他の手工業製品

制度史を中心とする文献史料

生産し、流通させ、使用・消費した主体としての人間の側のことは推測可能。

生産され、流通し、使用・消費された客体としてのモノの姿は見えないことが多い。

瓦…需要は寺院・中国的都城の宮殿にほぼ限られる。

同じ窯業製品でも一般的・日常的需要のある土器と対照的。

考古学の成果……最大の消費地である寺院・都城の発掘調査において大量に出土。

逆に瓦の出土により寺院・官衙であることを推定。

生産地である窯跡の調査。

モノ自体の研究には大きな蓄積。

文献史料と非文献資料

主体と客体

言葉を発した主体、書いた主体、伝達した主体、受けた主体、保管した主体……

ものを作った主体、所有した主体、使った主体、保管した主体……

作られた客体、所有された客体、使用された客体、保管された客体……

文献史料の場合、常に主体を明確にする必要あり。客体は自明ではない。

非文献史料の場合、客体は研究対象そのものとして具体的に存在。

主体は自明ではない。

文献史学と考古学／主体と客体（杉原荘介『原史学序論』）

課題：文献史学の立場から瓦の生産、流通、消費の問題を検討。

考古学の成果に依存して文献史料を解釈する方法論的依存は問題。

文献史料に基づき帰納的に枠組みを押さえた上で、次に考古学の成果に向き合う。

考古学資料と文献史料をつなぐもの…文字瓦＝焼成前窰書。生産に関わる文字。